**「新聞に載ったクリシュナの記事、コメント」**

大地震のため全滅になった学校にテンポラリ教室を作るのにDEOからの資金を待っている間に時間が経ってしまったので、自分たちで動いて竹を集めてきました。村の若者がこのために一生懸命頑張ってくれました。学校のメインの校舎はきちんと修理しないと使えません。厳しい経済の事情の中でも土地を買っておいたので今テンポラリ教室を作る場所がありました。

もうすぐ学校を始めるようにDEOから命令が来てから私たちは何をすればいいのか色々考えてきました。学校の理事も先生も皆がそれぞれ自分の家がなくなっているので学校に集まることは簡単ではなかった。

誰が、どこから、何をすればいいのかわからないまま何日か経ちました。ある日テンポラリ教室を作っている最中に、ネパールの教育に熱心に取り組んでいる二人の日本の女性の方が村に見えました。

地震のお見舞いと言って、日本で集めてくださった貴重な資金と他のお土産をくださいました。珍しいお客さんを見た回りの子どもが何人か集まってきたら、彼女らは自分のカバンから日本語の本を出してネズミ、猫、や蛙の歌を日本語で楽しく歌い始めました。歌や紙芝は楽しくて、子供たちは地震のことなどすっかり忘れられるような雰囲気をひと時でも持てたことは、本当に素晴らしかった。もちろんお客さんの日本人はネパール語が分からないし、子どもたちも日本語が理解できない環境の中でも、やる気があればできないことはないです。

外国の方々が、このようにしてくれているのに、私たちは何でできないのか？　地震の影響がなくて暇な先生は、集まることができるのに、それができない。このようなことできるはずだった。とても残念です。このようにやる気やアイディアがないのは私たちの大きな問題です。

この教育者の二人の日本人から沢山学ぶことができました。子供の教育に熱心な二人の方には非常に感謝しています。

遅くても仕方がないですがこのテンポラリ教室ができてからは現地の先生もこのようなやり方で楽しい教育をしてくださる事を期待します。先生とは色々なアイディアを生み出して、継続的に努力できる者であり、我慢強い性格であるべきではないですか。

５月３１、２０１５年「Kantipur　Daily　」

６月４日、２０１５年「Nagarik　Daily」

**学校は安全であるべき**

私たちの回りのインフラが安全であるべきです。

家は私たちの命です。学校はそれよりも大切ですので学校のインフラはもっと安全ではないと困ります。今回の地震で沢山の学校が全滅されました。このような校舎には子供入れて今日しくすることはできません。これから学校を作るときに安全な環境を整えることは第一目標にして、強くて軽いインフラじゃないといけません。たまたま今回の地震を起こった日が土曜日で休日だったので助かったのです。もしその日は土曜日ではなくて学校をやっていた日だったら村や町の子供が沢山死んでしまい未来がおかしくなったかもしれません。今回のきっかけに私たちは学ばなければなりません。このような子供のために安全な教室を作ってそこで教育するようにしましょう。適当な校舎の作り方ではいけません。教育の関係者はこのようなことをしっかりと考えて欲しいです。今すぐに学校を始めるためには場所や現地の事情見てテンポラリ教室を考えればよい。

Kantipur Daily　５月７日

Krishna　Kumpure　、Dhading